

委託事業実施内容報告書
平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名：公益財団法人千葉市国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	日本語教育・相互理解促進体制整備事業「ちば多文化協働プロジェクト」
事業の目的	外国人の日本語学習の質の向上と機会拡充、および多様な言語・文化を背景に持つ市民同士の対話を通じた相互理解
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	千葉市内には当協会の日本語学習支援事業のほか、21か所の日本語教室が存在する。地域では旧来の文法積み上げテキストを利用した学習が一定割合を占めており、日本語習得の面からも、また、外国人市民と日本人市民の対話を通じた相互理解という面からも、実効性に課題がある。 H26年度から文化庁委託事業において、対話を中心に据えた日本語教育の取組をおこない、外国人市民を主体的な発信者と捉えた内容重視・学習者主体の日本語クラスと、同コンセプトに基づく日本語ボランティア研修を実施した。また、在住外国人市民と接する機会を持たない市民層や若者世代を対象とした多文化理解の取組もおこなった。一定の成果が上がっているものの体制整備は未だ途上であり自立化に至っていない。地域の外国人市民数は増加しているものの、高齢化した日本語教室は後継者不足が目立つ。
本事業の対象とする空白地域の状況	千葉市6区のうち、若葉区には日本語教室が存在しない。当地区および隣接する四街道は近年アフガニスタンやスリランカ出身者の集住傾向があり、フィリピン人などと併せて一定比率の外国人市民が居住する。H27、28年度に文化庁委託事業として開いた短期の日本語クラスに参加者は多くなかったものの、異なる時期に外国人や生活支援員から学習支援について問い合わせがあるなど、日本語教育の潜在需要は多分にあると考えられる。
事業内容の概要	- 日本語教育—対話型学習活動の推進により、外国人の日本語力の向上と地域社会への参加意欲促進を図る。同時に、すべてのクラスを日本語ボランティアを始めとする日本人市民との協働でおこなうことにより、対話の重要性を日本人市民が実感できる機会を創出する。 - 支援者研修—対話型学習活動の普及促進を目的とした研修を行うことにより、日本語活動の質向上と新たな支援者の確保を図る。同時に、対話型の日本語クラスをファシリテートできる人材の育成を図る。 - 地域における多文化理解促進と成果普及—言語コミュニティ間に対話と協働の機会を創出する。 - 関係機関のネットワーク化—H27年度事業の中で発足させた会議体を維持・拡充する。また、このネットワークを活用して1～4の取組を実施することで、協力関係を強化する。
事業の実施期間	平成29年5月～平成30年3月(11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	神吉 宇一	武蔵野大学大学院
2	檜木 かおり	千葉市中央区役所地域振興課地域づくり支援室
3	新倉 涼子	千葉大学
4	野口 恭子	特定非営利活動法人 千葉市老人福祉施設協議会 人材確保・定着推進委員会
5	萬浪 絵理	公益財団法人千葉市国際交流協会
6	鈴木 恵美子	公益財団法人千葉市国際交流協会



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年5月22日(月) 9:30～12:00	2時間30分	千葉市国際交流プラザ	神吉宇一 檜木かおり 新倉涼子 野口恭子 萬浪絵理 鈴木恵美子	1. 事業概要(事業計画・事業内容・事業運営方針)の検討
2	平成29年10月30日(月) 9:30～12:00	2時間30分	千葉市国際交流プラザ	神吉宇一 檜木かおり 新倉涼子 野口恭子 萬浪絵理 鈴木恵美子	1. 実施済み事業内容報告・質疑応答 2. 今後の事業内容検討 3. 次年度事業計画検討
3	平成30年2月13日(火) 9:30～12:00	2時間30分	千葉市国際交流プラザ	神吉宇一 檜木かおり 新倉涼子 野口恭子 萬浪絵理 鈴木恵美子	1. 事業内容報告・質疑応答 2. 事業評価

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	千葉市関係各課、保健福祉センター、警察、保育所等、外国人と接している(または今後接する可能性のある)機関と会議体を維持・発展させ連携した。この連携を活かし、また、千葉市国際交流協会登録の日本語交流員との協働で日本語クラスや多文化理解推進、防災訓練参加などを実施した。 日本語教育空白地域の若葉区において、市役所関連部署や関連団体、交流員と連携して、日本語クラスを実施した。 商工会議所と連携して、企業向けに日本語教育の重要性を訴えるセミナーを実施した。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	日本語教育コーディネーターの萬浪は取組を企画、コーディネートした。日本語クラスに関しては、中核メンバーである指導者とともに準備・実施した。 協会職員の鈴木はシステムコーディネーターとして協会内部のリソースを生かし、取組を実施した。 外部機関への新規の働きかけを要する場合は協会の常務理事兼事務局長や事務局長補佐が担い、地域連携の強化にあたった。 また、協会内部では委託事業以外の取組と連動させながら、長期的な視野に立った効率的な事業実施をおこなった。 取組全体を通じ、取組4のネットワークを活かして他機関と連携・協働するほか、随時、運営委員から助言や評価を仰ぎながら適切な事業実施を行った。
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞				
取組1	取組の名称		日本語クラス	
	取組の目標		・学習者が生活密着のテーマに関して日本の状況を知り自分や自国を内省するという活動を通して、日本の生活についての意識化が促進される ・スピーチをしたり対話セッションに参加したりすることを通じて日本語の運用能力が培われる。 ・学習者が考えや体験を発信するという行為により、対話に参加する日本人の多文化理解が進み、また、日本語弱者の苦労や不安への共感が生まれる。日本人の意識にそういった変化を起こすことが受容感や自己効力感につながる。	
	取組の内容		A.「テーマでつながる日本語クラス」 ①テーマに関する調べ学習やディスカッションや専門家による講義 ②テーマについて自身の知識・意見・経験のスピーチ及び日本人とのグループセッション ③作文やミニドラマの形で内容をまとめたり発信したりする表現活動 B.「日本語活動ペア実践講座」 標準的カリキュラム案の生活場面リスト、防災や趣味の講習を取り入れる。生活課題の解決および日本人市民との相互理解を図りながら日本語学習能力をつける。 C.「若葉区にほんご会話クラス」 外国人の日本語会話力向上と相互理解を目的に、空白地域である若葉区において実施。 D.「読み書きクラス」 長年日本で生活して会話力はあっても文字の読み書きができない、という外国人を対象に、具体的な生活場面を取り上げながら学習能力をつける。 E.「初級クラス」 初級レベル、文法や文型の知識を得ながら話す練習もして、他のクラスや1対1対話活動を促進する。 F.プロジェクト会議 本事業の趣旨を理解し、主に日本語クラスの運営にも積極的に参加している、当協会の日本語交流員である協働メンバーと、日本語クラスのあり方と今後の方向性を検討する。	
	☒	空白地域を含む場合、空白地域での活動	Cは若葉区で実施	
	取組による体制整備		・地域で生活する外国人が生活に密着したテーマについて日本を理解したり、必要な語彙や表現を習得したりすることが生活課題の解決につながり、社会参加が促進される。 ・参加外国人にとって自己の体験や考えを発信し日本人と対話することがエンパワメントとなり、事後も積極的・自律的に地域活動に参画することで地域社会の活性化に寄与する。 ・テーマに関心を持つ外国人参加者を募る過程で様々な機関や個人が連携することがネットワークの強化となる。 ・学習支援者に対して、対話型教室活動の具体的なコンテンツを提供することができ、取組の拡散が図れる。 ・日本人側の異文化理解が進み、異なる視点から物を見ることの価値に対する気づきが地域社会で生かされる。(例:外国の子育てに関する知識が保育士や保健師によって業務に生かされる)	
	取組による日本語能力の向上		A. 関心のあるテーマのクラスで日本人参加者との対話をおこなうことで、単語や表現を能動的に習得できる。道具としての日本語を習得するだけでなく、日本人参加者と対等な立場でテーマについて自分の考えや経験を述べることで自尊感情を伴った言語習得ができる。 B. トピックに沿って話す・聞く・読む・書く、の様々な学習活動をおこなうことにより運用能力がつく。また、他の参加者の学習リソースを知ることで「日本語の学び方」を共有できる。 C. 各学習者が生活課題に即した話題でグループ学習をおこなうことで、生活に密着した単語や表現を習得できる。ボランティアや他の学習者とのインタラクションを通じて、発話力と聴解力をつけることができる。 D. 各学習者が協働で読み書き学習を行うことで学習方略を共有するとともに、生活に密着した単語や表現を習得できる。 E. 初級の文法文型に関する知識を習得し、かつ話す練習を行い、日本語運用能力がつく。	
	参加対象者	希望する外国人住民、日本人住民、協働メンバー	参加者数 (内 外国人数)	153人 (77人)
	広報及び募集方法	協会広報誌、千葉市広報、チラシ、インターネット		
開催時間数	総時間 91 時間(空白地域 12時間)	A:3時間×3回×3期、 B:2時間×1回×10期 C:2時間×6回×1期 D:2時間×5回×1期 E:2時間×10回×1期 F:2時間×1回		
主な連携・協働先	NPO法人日本防災士会千葉県北部支部 千葉市社会福祉協議会若葉区事務所 東京入国管理局千葉出張所 ハローワークちば 千葉市区役所			

参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	29	8	0	4	7	1	4	1
	アメリカ(1人)、イギリス(3人)、ウガンダ(1人)、エクアドル(1人)、オーストラリア(1人)、オランダ(1人)、スリランカ(1人)、台湾(1人)、ドイツ、日本(70人)、パキスタン(1人)、マレーシア(1人)、メキシコ(1人)、モロッコ(1人)、モンゴル(1人)							

テーマでつながる日本語クラス

上段：学習者数
下段：支援者数・その他参加者数

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成29年6月3日 (土) 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	5人 3人	第1期(防災)－①	防災に関する講話と内容の共有。 防災に関する話し合い、スピーチの準備。	藤平真由美、 萬浪絵理、白川恵 (日本防災士会千葉県北部支部)	
2	平成29年6月10日 (土) 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	6人 15人	第1期(防災)－②	学習者のスピーチと質疑応答、小グループに分かれて交流、対話、タスク活動。	萬浪絵理、藤平真由美	
3	平成29年6月17日 (土) 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	3人 5人	第1期(防災)－③	ふりかえり、今後の具体的なアクションについて話し合い。	藤平真由美、 萬浪絵理	
4	平成29年10月24日 (火) 13:00～16:00	3	千葉市国際交流プラザ	2人 3人	第2期(お金)－①	お金に関する講話と内容の共有。 お金に関する話し合い、スピーチの準備。	萬浪絵理、藤平真由美	
5	平成29年10月31日 (火) 13:00～16:00	3	千葉市国際交流プラザ	7人 10人	第2期(お金)－②	学習者のスピーチと質疑応答、小グループに分かれて交流、対話、タスク活動。	萬浪絵理	
6	平成29年11月7日 (火) 13:00～16:00	3	千葉市国際交流プラザ	5人 3人	第2期(お金)－③	お金に関することばをひろげたり、お金の管理でいじなことを作文。	萬浪絵理	
7	平成30年1月17日 (水) 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	6人 3人	第3期(結婚・恋愛)－①	結婚・恋愛に関する講話と内容の共有。 結婚・恋愛に関する話し合い、スピーチの準備。	山田由美子	萬浪絵理
8	平成30年1月24日(水) 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	6人 11人	第3期(結婚・恋愛)－②	学習者のスピーチと質疑応答、小グループに分かれて交流、対話、タスク活動。	萬浪絵理	山田由美子
9	平成30年1月31日(水) 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	4人 3人	第3期(結婚・恋愛)－③	テーマに関して自分の国や自分のことをポスターにまとめて、発表。	山田由美子	萬浪絵理

計 27時間

日本語活動ペア実践講座

上段：学習者数
下段：支援者数

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成29年5月18日 (木) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	6人 9人	コミュニケーションの力を高めるために、グループで対話活動①	グループで対話活動	萬浪絵理	
2	平成29年6月23日 (金) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	5人 7人	コミュニケーションの力を高めるために、グループで対話活動②	グループで対話活動	萬浪絵理	
3	平成29年7月10日 (月) 13:30～15:30	2	千葉市国際交流プラザ	5人 8人	コミュニケーションの力を高めるために、グループで対話活動③	グループで対話活動	萬浪絵理	
4	平成29年8月30日 (水) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	6人 7人	コミュニケーションの力を高めるために、グループで対話活動④	グループで対話活動	萬浪絵理	
5	平成29年9月26日 (水) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	2人 3人	コミュニケーションの力を高めるために、グループで対話活動⑤	グループで対話活動	萬浪絵理	
6	平成29年10月11日 (水) 13:30～15:30	2	千葉市国際交流プラザ	1人 3人	コミュニケーションの力を高めるために、グループで対話活動⑥	グループで対話活動	萬浪絵理	
7	平成29年12月11日 (月) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	6人 8人	コミュニケーションの力を高めるために、グループで対話活動⑦	グループで対話活動	萬浪絵理	
8	平成30年1月23日 (火) 13:30～15:30	2	千葉市国際交流プラザ	4人 4人	コミュニケーションの力を高めるために、グループで対話活動⑧	グループで対話活動	萬浪絵理	
9	平成30年2月22日 (木) 13:30～15:30	2	千葉市国際交流プラザ	3人 3人	コミュニケーションの力を高めるために、グループで対話活動⑨	グループで対話活動	萬浪絵理	
10	平成30年3月3日(土) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	4人 4人	コミュニケーションの力を高めるために、グループで対話活動⑩	グループで対話活動	萬浪絵理	

計 20時間

若葉区にほんごかいわクラス				上段：学習者数 下段：支援者数				
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成29年5月24日 (水) 10:00~13:00	2	若葉区ボランティアセンター	6人 3人	トピックで会話①	学習者の身近なトピックで会話をしながら語彙・表現の拡充	萬浪絵理	鈴木恵美子
2	平成29年5月31日 (水) 10:00~13:00	2	若葉区ボランティアセンター	2人 3人	トピックで会話②	学習者の身近なトピックで会話をしながら語彙・表現の拡充	萬浪絵理	鈴木恵美子
3	平成29年6月7日 (水) 10:00~13:00	2	若葉区ボランティアセンター	3人 2人	トピックで会話③	学習者の身近なトピックで会話をしながら語彙・表現の拡充	萬浪絵理	鈴木恵美子
4	平成29年6月14日 (水) 10:00~13:00	2	若葉区ボランティアセンター	5人 3人	トピックで会話④	学習者の身近なトピックで会話をしながら語彙・表現の拡充	萬浪絵理	鈴木恵美子
5	平成29年7月5日 (水) 10:00~13:00	2	若葉区ボランティアセンター	1人 0人	トピックで会話⑤	学習者の身近なトピックで会話をしながら語彙・表現の拡充	萬浪絵理	鈴木恵美子
6	平成29年7月12日 (水) 10:00~13:00	2	若葉区ボランティアセンター	1人 1人	トピックで会話⑥	学習者の身近なトピックで会話をしながら語彙・表現の拡充	萬浪絵理	鈴木恵美子

12時間

日本語読み書きクラス				上段：学習者数 下段：支援者数				
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成29年10月18日 (水) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	6人 2人	読み書き①	かなの読み書き練習と多読絵本を使った協働学習	萬浪絵理	
2	平成29年10月25日 (水) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	5人 2人	読み書き②	かなの読み書き練習と多読絵本を使った協働学習	萬浪絵理	
3	平成29年11月1日 (水) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	6人 3人	読み書き③	かなの読み書き練習と多読絵本を使った協働学習	萬浪絵理	
4	平成29年11月8日 (水) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	2人 3人	読み書き④	かなの読み書き練習と多読絵本を使った協働学習	萬浪絵理	
5	平成29年11月15日 (水) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	3人 3人	読み書き⑤	かなの読み書き練習と多読絵本を使った協働学習	萬浪絵理	

計 10時間

日本語初級クラス								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成30年1月11日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	3人	初級文法と会話①	「～は～が～です」「～は～より～です」を使った表現と会話	萬浪絵理	
2	平成30年1月18日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	7人	初級文法と会話②	「～どちらが～ですか」「～のほうが～です」「～がいちばん～です(か)」を使った比較表現と会話	萬浪絵理	
3	平成30年1月25日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	5人	初級文法と会話③	形容詞の過去、過去否定を使った会話	鈴木恵美子	
4	平成30年2月1日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	4人	初級文法と会話④	動詞のグループ分け、て形、「～ください」の表現	萬浪絵理	
5	平成30年2月8日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	4人	初級文法と会話⑤	「今、～ています」の表現と会話	萬浪絵理	
6	平成30年2月15日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	4人	初級文法と会話⑥	「～ています」を使った表現と会話	鈴木恵美子	
7	平成30年2月22日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	4人	初級文法と会話⑦	「～てもいいですか」「～てはいけません」許可を求める表現と会話	萬浪絵理	
8	平成30年3月1日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	4人	初級文法と会話⑧	「～で、～くて」形容詞を重ねた表現、順接・逆接の表現	萬浪絵理	
9	平成30年3月8日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	2人	初級文法と会話⑨	「～ないでください」、病気表現、既習の表現の運用練習	萬浪絵理	
10	平成30年3月15日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	4人	初級文法と会話⑩	「～なければなりません」「～なくてもいいです」、既習の表現の運用練習	萬浪絵理	

計 20時間

プロジェクト会議						
回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成30年1月31日 (水) 14:00～16:00	2	千葉市中央区ボランティアセンター	萬浪絵理、小野聡、佐野純子、高木敏子、高岡雅子、平澤昭男、藤平真由美、山田由美子、吉永祥三、鈴木恵美子	今年度の日本語クラス等について	今年度のクラスをふり返り、次年度に向けて意見交換
計		2時間				

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【テーマでつながる日本語クラス(結婚・恋愛) 第3回 平成30年1月31日】

結婚・恋愛をテーマとしたクラスの最終回。テーマについてのお国事情や自分のことをポスターにまとめるという活動をした。交流員が持ち寄ってくれた材料になりそうな写真やパンフレットも使って、同じテーブルの人と相談しながら協働して作業できた。交流員も外国人参加者のお手伝いに徹するのではなく、参加者のひとりとして自分の「作品」も作り、最後に、全員がポスターを発表・質問にも答えた。ポスターづくりはテーマのクラスで初めて取り入れたが、調べたり話したり書いたり読んだりして、それぞれの日本語の力に合わせて、双方向的に学ぶことができた。



協働での作業で、アイデアがふくらみます。



かなり初級の人でも、文を作って発表できました。

○取組事例②

【読み書きクラス 第2回 平成29年10月25日】

ひらがな・カタカナが読めるグループは多読絵本を使い各自で読む→ことば・意味を確認しながら、読む活動を行った。この後、自分で絵本をつくる活動で、文字・文章を書く練習をすることとなる。ひらがな・カタカナが読めないグループは、五十音表を使って読む練習をしたのち、書く活動を行った。



多読絵本を使って読む活動



かなを読む・書く活動

○取組事例②

【日本語活動ペア実践講座 第8回 30年1月30日】

いつもは1対1で話している日本語交流員と外国人参加者が合同で活動する講座。外国人参加者にとっては、日本語運用の力をつける「実践講座」、日本語交流員にとっては、いろいろな人やその文化を知ることができる「実践交流会」として実施している。この日は、「かぜ」をテーマに対話活動をした。

感想抜粋

●日本語交流員

- ・自分が多弁にならず、学習者の言葉を引き出してあげることの大切さがよくわかった
- ・1対1の活動に比べると、いろいろな人やいろいろな国の 人と交流できてよかった。交流員同士の交流もできてよかった。

●外国人参加者(翻訳を含む)

- ・いろいろな人と話すと違う意見が聞ける。
- ・間違えても大丈夫。もっと話すことが大切。



(2) 目標の達成状況・成果

【テーマでつながる日本語クラス】

「交流することに自信がついた」「自分のことや自分の国について伝えることができた」という項目に一定の評価があったことから、自己表現しながら地域の人と関わることの意義が認められたと言える。

「防災」のテーマのクラスへの参加をきっかけに、その後、地域の避難所解説訓練に参加した人もあり、生活に直結するクラス展開ができたと言える。

「親しく楽しく自分の言いたいことや感想が発現できた」「話しながら勉強することが楽しい」などのコメントから、日本語運用をとおして日本語を学ぶことができる場が提供できていると言える。

各回とも地域からの一般参加者が一定数あり、外国人と特定のテーマで話したり彼らの声を聞いたりする機会を提供することができた。

【日本語活動ペア実践講座】

「参加して普段の1対1の日本語活動に参考になった」と答えた人が全体の95%を占めた。対話活動のモデルを示すことで、外国人参加者の日本語運用を促進する日本語教育活動の基盤整備ができていると言える。

【若葉区にほんごかいわクラス】

空白地域である若葉区で実施した。地域に住む外国人が参加したので、ニーズがあることを確認できた。

【読み書きクラス】

「日本語を読むこと・書くことに自信がついた」「読み書きの勉強方法がわかった」「勉強の意欲が上がった」と答えた人が多いことから、学習者の自立を促すという目標における成果が確認できた。

【初級クラス】

文法シラバスのテキストを用いて、基礎的な文が作れるまでの学習をサポートした(2月8日現在継続中)。今年度、このクラスの運営は日本語教授法の有知識者である日本語交流員に任せてあったが、困難点が挙がっていたため、この1コースを委託事業の中で実施した。進め方の改善策や1対1活動への移行について知見を得ることができた。

【プロジェクト会議】

2月のプロジェクト会議にて各取組の成果と課題を洗い出し、改善案をもらうことができた。メンバー同士の信頼関係も厚く、今後の取組を担っていくための重要なリソースとなっている。

(3) 今後の改善点について

【テーマでつながる日本語クラス】

回数延長の提案が協働メンバーから挙がっていたが、参加見込みや諸々の制約から実現していない。

【日本語活動ペア実践講座】

参加したペアがその後どのような1対1の活動をおこなっているかの検証はまだできていない。また、依然として、この講座に1度も参加せず、テキストを用いた受動的な学習を続けている人も多く見受けられる。

【若葉区にほんごかいわクラス】

参加者が少なく、また、2回目以降に来なくなってしまった参加者もいた。外国人市民にとって馴染みのない建物であったことや有料であったことも影響したかもしれない。

【読み書きクラス】

全5回では少ないのではないかという意見が協働メンバーからあった。また出席率が安定しないことで学習活動の進め方に課題が残った。

【初級クラス】

このクラスへのニーズは大きい。媒介言語やレベルが多様なことから、指導者に能力が要求される。本来は有償の日本語教育専門人材が責任をもって担うべきであるが、財源の問題から無償で引き受けてくれる人材に頼っているため、人員不足が課題である。

【プロジェクト会議】

前年度よりも2名増加したが、事業継続のためには層を更に厚くしていくことが必要。

<取組2>

取組 2	取 組 の 名 称		支援者研修						
	取 組 の 目 標		・講座終了後、参加者による学習支援の具体的な内容にカリキュラム案など、生活に密着したコミュニケーション支援の内容が取り込まれる。 ・対等な関係づくりを目指した活動が普及する。 ・支援活動未経験者が安心と期待を持って活動を始められる。 ・支援者が自己の学習支援のふりかえりができる。						
	取 組 の 内 容		A. 日本語交流員 新基本講座(基礎編、実践編) 日本語初級者へのコミュニケーション支援に関する基礎知識提供と、傾聴スキルや「やさしい日本語」の演習、対話活動の素材紹介と演習。 B. 日本語交流員 ステップアップ講座 傾聴型日本語支援の省察、異文化適応の演習など、日本語活動の質の向上を目的としたフォローアップ研修。 C. どうなってるの日本語文法講座 対話活動の質の向上を目的として日本語の文の構造に関して学ぶ講座。 D. 東京オリンピックパラリンピックで外国人と日本語で話そう 一般市民を対象に、外国人とやさしい日本語で話せるようにする講座。(定住外国人に対する学習支援者の増加を期待。)						
	☒	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		・既存の支援者の質の向上を通じた外国人学習者の学習動機の上昇および継続的な学習者の増加。 ・新たな支援者の増加を通じた、地域での学習機会の拡充。						
	取組による日本語能力の向上								
	参加対象者		学習支援ボランティア希望者および経験者、若葉区での活動希望者、交流に関心を持つ一般市民				参加者数 (内 外国人数)	95人 (4人)	
	広報及び募集方法		チラシ、広報紙、インターネット、日本語教室への案内など						
	開催時間数		総時間63.5時間(空白地域63.5時間)		A:基礎編:2時間×3回×4期、実践編:2時間×3回×2期 B:2.5時間×7回×1期 C:2時間×3回×1期 D:2時間×2回×1期				
	主な連携・協働先								
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		1	0	0	2	0	0	0	0
		日本(74人)、マレーシア(1人)							

実施内容

新基本講座

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成29年5月9日 (火) 13:00~15:00	2	千葉市国際交流プラザ	22人	基礎編第1期-① 日本語ボランティアとはなにか	地域の多文化化の現状と日本語交流員の役割について	萬浪絵理	
2	平成29年5月16日 (火) 13:00~15:00	2	千葉市国際交流プラザ	19人	基礎編第1期-② コミュニケーションスキル	相手に寄り添う方法、初級学習者の発話を促す傾聴型コミュニケーションスキル	萬浪絵理	
3	平成29年5月23日 (火) 13:00~15:00	2	千葉市国際交流プラザ	17人	基礎編第1期-③ やさしい日本語	具体的な学習活動の内容、「やさしい日本語」	萬浪絵理	
4	平成29年6月2日 (金) 13:00~15:00	2	千葉市国際交流プラザ	8人	実践編第1期-① 対話型の日本語活動のために	すきなもののシート、語彙マップを活用した活動の演習	萬浪絵理	
5	平成29年6月9日 (金) 13:00~15:00	2	千葉市国際交流プラザ	8人	実践編第1期-② 対話型の日本語活動のために	対話活動における「質問のつくりかた」の演習	萬浪絵理	
6	平成29年6月16日 (金) 13:00~15:00	2	千葉市国際交流プラザ	8人	実践編第1期-③ 対話型の日本語活動のために	おしゃべりを学習に変える演習	萬浪絵理	

7	平成29年9月8日 (金) 10:00~12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	16人	基礎編第2期-① 日本語ボランティア とはなにか	地域の多文化化の現状と日本語交 流員の役割について	萬浪絵理	
8	平成29年9月15日 (金) 10:00~12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	14人	基礎編第2期-② コミュニケーション スキル	相手に寄り添う方法、初級学習者 の発話を促す傾聴型コミュニケー ションスキル	萬浪絵理	
9	平成29年9月22日 (金) 10:00~12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	16人	基礎編第2期-③ やさしい日本語	具体的な学習活動の内容、「やさ しい日本語」	萬浪絵理	
10	平成29年11月2日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	18人	基礎編第3期-① 日本語ボランティア とはなにか	地域の多文化化の現状と日本語ボ ランティアの役割について	萬浪絵理	
11	平成29年11月9日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	18人	基礎編第3期-② やさしい日本語	「やさしい日本語」相手に寄り添 う方法、	鈴木恵美子	
12	平成29年11月16日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	18人	基礎編第3期-③ コミュニケーション スキル	具体的な学習活動の内容、初級学 習者の発話を促す傾聴型コミュニ ケーションスキル	萬浪絵理	
13	平成29年11月30日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	5人	実践編第2期-① 対話型の日本語活動 のために	すきなもののシート、語彙マップを 活用した活動の演習	萬浪絵理	
14	平成29年12月7日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	4人	実践編第2期-② 対話型の日本語活動 のために	対話活動における「質問のつくり かた」の演習	萬浪絵理	
15	平成29年12月14日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	4人	実践編第2期-③ 日本語ボランティア とはなにか	おしゃべりを学習に変える演習	萬浪絵理	
16	平成29年2月17日 (土) 13:00~15:00	2	千葉市国際 交流プラザ	19人	基礎編第4期-① 日本語ボランティア とはなにか	地域の多文化化の現状と日本語ボ ランティアの役割について	萬浪絵理	
17	平成29年2月24日 (土) 13:00~15:00	2	千葉市国際 交流プラザ	16人	基礎編第4期-② コミュニケーション スキル	相手に寄り添う方法、初級学習者 の発話を促す傾聴型コミュニケー ションスキル	萬浪絵理	
18	平成29年3月3日 (土) 13:00~15:00	2	千葉市国際 交流プラザ	18人	基礎編第4期-③ やさしい日本語	具体的な学習活動の内容、「やさ しい日本語」	萬浪絵理	

36時間

日本語交流員ステップアップ講座					上段：受講者数 下段：外国人協力者数			
回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成29年7月11日 (火) 9:30~12:00	2.5	千葉市国際 交流プラザ	5人	①間違いとは	日本語や社会行動における「正し さ」についての考察	萬浪絵理	
2	平成29年9月12日 (火) 9:30~12:00	2.5	千葉市国際 交流プラザ	11人	②第2言語習得	外国につながる子どもたちの日本 語支援の重要性について、心理学 の視点からの考察	新倉涼子	萬浪絵理
3	平成29年10月3日 (火) 9:30~12:00	2.5	千葉市国際 交流プラザ	5人 4人	③対話の達人にな ろう-1	「対話」を成立させるためのコ ミュニケーションを学習者との協 働セッションをとおして考察	萬浪絵理	
4	平成29年10月10日 (火) 9:30~12:00	2.5	千葉市国際 交流プラザ	5人 2人	④対話の達人にな ろう-2	「対話」を成立させるためのコ ミュニケーションを学習者との協 働セッションをとおして考察	萬浪絵理	
5	平成29年11月7日 (火) 9:30~12:00	2.5	千葉市国際 交流プラザ	7人	⑤生活場面と活動 素材	身近なものを日本語活動に活かす 方法、演習	萬浪絵理	
6	平成29年11月21日 (火) 9:30~12:00	2.5	千葉市国際 交流プラザ	5人	⑥日本語活動の組 み立て演習	これまで習った日本語活動の方法 を総合的に使いながら、活動のス ケジュールを組み立てる演習	萬浪絵理	
7	平成29年12月5日 (火) 9:30~12:00	2.5	千葉市国際 交流プラザ	6人	⑦どこまでサポー トできる？相談へ の対応	外国人参加者からの相談について 具体的な事例を用いて検討	出口雅子	萬浪絵理

17.5時間

どうなってるの日本語文法講座								
回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成29年6月26日 (月) 10:00~12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	5人	文の構造	インタビュー動画を素材として、 日本語の特徴を観察	萬浪絵理	
2	平成29年7月3日 (月) 10:00~12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	6人	動詞の活用 9	動詞の活用規則と後続表現	萬浪絵理	

3	平成29年7月10日(月) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	4人	品詞・文法	2つの文法とその体系、使われる場面	萬浪絵理	
---	------------------------------	---	------------	----	-------	-------------------	------	--

6時間

東京オリンピックパラリンピックで外国人と日本語で話そう								
回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成30年1月16日(火) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	7人	伝わりやすいコミュニケーション ①	「やさしい日本語」の基本	萬浪絵理	
2	平成30年1月23日(火) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	6人	伝わりやすいコミュニケーション ②	具体的なサポートの演習	萬浪絵理	

4時間

(1)特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【日本語交流員ステップアップ講座 第7回 29年12月5日】

「ピナット〜外国人支援ともだちネット」のコーディネーター、出口さんを講師として、外国人参加者からの具体的な相談事例に向き合い、自分や他者の意見を聞きあった。



○取組事例②

【東京オリンピックパラリンピックで外国人と日本語で話そう 第2回 30年1月23日】

1回目で学んだ伝わりやすい日本語について復習したあと、話すときのテンポや文末の形についても意識を向けて、ありそうな場面を設定し、具体的なサポートのシミュレーションをした。



(2) 目標の達成状況・成果

【講座全体】

「とてもよかった」「よかった」とした人が全体の90%を占めたことから、目標は概ね達成できたといえる。講座の内容が「予想と違った」が「期待どおり、期待以上」とした人が多数あった。違った点としては「日本語指導法だと思っていた」「進め方がユニークで面白く、興味を持ち続けて参加できた」「対話が多くてよかった」などのコメントがあった。対話型・参加型の日本語活動を推奨するために、研修においてその意義を体感してもらうことができていると言える。

【新基本講座】

1対1の活動記録から、一定程度は学習者が日常生活の中で疑問に思ったことやコミュニケーション上の課題を持ち込み、その課題について学習活動がおこなわれていると言える。

「単純に日本語を教えればいいと考えていたが、今の日本における外国人をもっと知ることが必要だと思った」「日本語を教えるという態度で臨むのではなく、対話を通して人間関係を築くことがとても大切だと思った」などのコメントから、対等な関係づくりを基盤とした日本語支援について周知できたと考えられる。

「会話を楽しみながら活動したい」など、活動未経験者に対して期待感や安心感を与える講座内容が提供できた。

「今までの自分の日本語支援はどうだったかなと考えた」「私は答えをすぐ教えてあげていて、解決方法を伝えるということをしていなかったと気づいた」などのコメントから、支援者が自己の学習支援のふりかえりができていると言える。

【ステップアップ講座】

前年度と変えて、今年度は1か月おきに異なるテーマを取り上げて実施した。具体的な学習活動の進め方のほか、こどもの言語習得と発達の関係、対人支援に必要なサポートの基準設定など、テーマを選択して受講できるようにした。それぞれについて「普段の活動を見直す機会になった」「とても考えさせられた」「とても気になることだったので受講できてよかった」などの評価コメントがあったことから、ニーズにあった研修が提供できたと言える。

【日本語文法講座】

「外国人の視点に立てたのでとてもおもしろかった」「日本語は主語目的語をはっきり言わなくても伝わる言語だとわかった」などのコメントから、日本語学習の方法として対話をおこなう際に必要なコミュニケーション上の配慮について講座内で具体的に知らせることができた。

【東京オリンピックパラリンピックで外国人と日本語で話そう】

他の支援者研修と違い、「ちば市政だより」から申し込んだ一般市民が多かった。

「今までは英語に固執していたが、助けになりたいという気持ちが先。日本語やジェスチャーを使って、自分のできることでやろうと思った」などのコメントから、多様な言語を背景に持つ人とのコミュニケーションについて気づきを提供することができた。

(3) 今後の改善点について

当協会の日本語教育事業の理念を理解して研修を担える人材の獲得に至っていない。(但し、新基本講座の一部は当協会職員が担当できるようになりつつある)

日本人と外国人が対話をとおして対等な人間関係づくりをする中で外国人市民の日本語習得を促進する、という当協会独自の理念に基づき、支援者研修を実施してきた結果、日本語教育事業への参加者が増加している。一方、外国人の日本語能力がどのように変容しているか、客観評価をすることは理念の性質上、難しい。参加者自身が得ている感覚的な成果を対外的にどう表現していくか、引き続き検討が求められる。

生活支援の基準をテーマとした講座で地域の日本語教室所属の受講者から「相談できる専門家や組織があれば助かる」というコメントがあったほか、協会登録の支援者からも、「サポート体制についてすべての交流員に情報提供したほうがよい」という提案があった。リソースを共有し、より多くの人が安心して日本語活動に参画できるよう、体制整備を続ける必要がある。

<取組3>

取組3

取組の名称		地域の多文化理解促進の取組						
取組の目標		・地域住民の多文化理解が促進される。 ・日本語交流員やボランティアではない一般の地域住民が外国人と対話する機会が増える。 ・上記の対話機会創出によって、外国人市民と日本語でコミュニケーションがとれることの重要性、すなわち、日本語教育に対する理解が地域住民に促進される。 ・成果普及により取組に関心を持つ個人や機関が前年度よりも増加する。						
取組の内容		A 多文化理解セミナー 講演と交流をセットで実施し、参加者同士の対話の場を創出する。 音楽、ダンス、伝統芸能、料理等、外国人が日本語で自分の文化を紹介する体験型イベントを通して相互理解を図る。 B 外国人市民の町内会活動参加促進ー防災訓練参加キャンペーン 活動参加を希望する外国人を自治会とつなぐ連絡調整。 C ふれあいフェスティバルや事業フェイスブックページを通じた成果普及 D 企業向け日本語教育セミナー 企業に向けて地域日本語教育の重要性をアピールする。地域市民との交流・対話を通じた日本語習得の重要性を唱える。						
☒	空白地域を含む場合、空白地域での活動	若葉区で多文化理解セミナー実施						
取組による体制整備		・地域市民の多文化理解が進み、多様な文化背景の市民が暮らしやすい地域になる。 ・セミナー参加者同士の対話の機会を設けることにより、多文化化に伴う問題と解決の重要性が認識される。 ・外国人にとって町内の隣人との日本語による対話の機会ともなる防犯パトロール／防災訓練への参加斡旋により、外国人が地域に貢献する機会が生まれる。 ・上記斡旋を通じ、各地自治会と外国人の社会参加をめぐる問題について連携する体制が生まれる。						
取組による日本語能力の向上		取組A・Cは一般市民と外国人市民との対話を核とするため、参加外国人はコミュニケーションの中で日本語習得を図れる。 取組Bにおいて、学習者が居住地の活動に参加することにより、地域市民と情報交換をしたり対話をしたりする。生活に密着した日本語の習得の機会が増えるとともに、地域参加への糸口となる。						
参加対象者		千葉市内外の住民、参加希望外国人				参加者数 (内 外国人数)		281人 (84人)
広報及び募集方法		チラシ、広報誌、インターネット等						
開催時間数		総時間 25時間(空白地域3.5時間)		A: 1.5時間×3回、2.5時間×2回、3時間×1回、3.5時間×1回 B: 2時間×1回 C: 5時間×5回 D: 2時間×1回				
主な連携・協働先		千葉市子育て支援館、千葉市社会福祉協議会若葉区事務所、NPO法人日本防災士会千葉県北部支部、稲浜日本語ボランティア、センシティ土曜にほんご学級、千葉市介護保険管理課 美浜区役所地域振興課、若葉区役所地域振興課、千城台北小学校避難所訓練運営委員会、磯辺中学校避難所運営委員会、千葉商工会議所						
参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	28	3	0	3	12	4	1	0
		アメリカ(1人)、アフガニスタン(2人)、イギリス(1人)、イラン(2人)、エクアドル(1)、オーストラリア(1人)、キューバ(1人)、シリア(2人)、シンガポール(1人)、スリランカ(1人)、台湾(3人)、タンザニア(1人)、ドイツ(1人)、日本(197人)、パキスタン(2人)、 バングラデシュ(1人)、マレーシア(2人)、ミャンマー(4人)、メキシコ(2人)、モロッコ(2人)、モンゴル(2人)						

アメリカ(1人)、アフガニスタン(2人)、イギリス(1人)、イラン(2人)、エクアドル(1)、オーストラリア(1人)、キューバ(1人)、シリア(2人)、シンガポール(1人)、スリランカ(1人)、台湾(3人)、タンザニア(1人)、ドイツ(1人)、日本(197人)、パキスタン(2人)、
 バングラデシュ(1人)、マレーシア(2人)、ミャンマー(4人)、メキシコ(2人)、モロッコ(2人)、モンゴル(2人)

実施内容

多文化理解セミナー

上段：日本人数
下段：外国人数

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	概要	講師名	補助者名
1	平成29年6月30日（金） 9：30～11：00	1.5	千葉市子育て支援館	13人 3人	外国出身パパママによる絵本の読み聞かせと子育て交流	アメリカ合衆国、スリランカ、マレーシアの出身者が母語で絵本を読み聞かせし、絵本の一部を参加者もいっしょに言ってみたり、各国の手遊びを体験したりした。また、子育ての話題で交流をした。		
3	平成29年10月2日（金） 9：30～11：00	1.5	若葉区ボランティアセンター	30人 4人	外国出身パパママによる絵本の読み聞かせと子育て交流	モロッコ、フィリピン、韓国、キューバの出身者が母語で絵本を読み聞かせし、絵本の一部を参加者もいっしょに言ってみたり、各国の手遊びを体験したりした。また、子育ての話題で交流をした。		鈴木恵美子
3	平成29年10月4日（水） 10：00～13：00	3	新宿公民館	19人 3人	いろいろな国のカレーをつくって食べよう	ベトナム、バングラデシュ、タイの出身者と一緒にカレーを作りながら交流した。外国出身者は日本語でカレーの作り方や、自分の文化について紹介した。		
4	平成29年10月28日（土） 13：30～17：00	3.5	千葉市国際交流プラザ	70人 58人	日本語交流会	14組の外国出身者の日本語スピーチ、歌などのパフォーマンスと交流。		
5	平成29年11月20日（月） 10：00～12：30	2.5	千葉市国際交流プラザ	19人 12人	スポーツで日本を開く!!	「日本人」とは、どんな人のことを指すのか「日本語」とは、どんなことを指すのか、グループで意見を交わした。	松尾慎	毛海濤
6	平成29年11月30日（木） 10：00～11：30	1.5	蘇我コミュニティセンター	22人 3人	外国出身パパママによる絵本の読み聞かせと子育て交流	韓国、キューバの出身者が母語で絵本を読み聞かせし、絵本の一部を参加者もいっしょに言ってみたり、各国の手遊びを体験したりした。また、子育ての話題で交流をした。		鈴木恵美子
7	平成29年12月4日（月） 10：00～12：30	2.5	蘇我コミュニティセンター	26人 2人	日本で働く外国人介護職員	EPA外国人介護福祉士を受け入れている施設の担当者や外国人職員のお話と交流を通して、地域で働く外国人市民への理解を促進する。		鈴木正人、グエン・ティ・マイ、レスタリ・ヌル・ハディアン シャ、レーティトゥ、グエン・ティ・トウイー
計		16時間	人					

防災訓練参加

上段：日本人数
下段：外国人数

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	協力先	概要	講師名	補助者名
1	平成29年9月3日（日） 9：30～11：30	2	磯辺中学校 千城台北小学校	1人 2人	美浜区地域振興課、若葉区地域振興課磯辺中学校避難所運営委員会、千城台北小学校避難所訓練運営委員会	避難所開設訓練に参加		
計		2時間	人					

企業向けセミナー

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	概要	講師名	補助者名
1	平成29年10月19日(木) 14:00~16:00	2	千葉商工会議所	16人	外国人材活用ためのコミュニケーションセミナー	外国人材を雇用している（または雇用を検討している）企業を対象として①日本語教育②やさしい日本語③異文化理解についてのセミナーを行なった。	新倉涼子（1h）、萬浪絵理（1h）	アルマン・ゲバラ 新倉涼子（1h）、萬浪絵理（1h）
計		2時間	人					

○取組事例①

【企業向けセミナー 29年10月19日】

外国人を雇用したい地域の企業向けに「外国人材活用のためのコミュニケーションセミナー」を実施した。外国人社員が能力を発揮できる環境をつくるために、社員に必要な異文化理解の知識や伝わりやすいコミュニケーションのスキルを取り上げた。



○取組事例②

【多文化理解セミナー 第7回 29年12月4日】

生活のさまざまな場面で活躍する外国につながる人々をテーマとした交流会。今回は「介護施設」を取り上げた。介護の仕事をするために来日した外国の人とその施設の方の話を聞き、交流した。各グループで活発な質疑や意見交換がされた。



(2) 目標の達成状況・成果

【多文化理解セミナー】

すべてのセミナーについて参加者全員が「よかった」「とてもよかった」と評価した。セミナーによっては参加者の3割が外国人と話すのは初めてと回答した。これらの結果および以下の自由コメントから、地域住民の多文化理解促進および対話の機会創出という取組目標が達成されたといえる。

セミナー1(読み聞かせ 子育て世代対象)

「身近で外国の方が増えてきたと感じていたので文化を理解しようとする自分も子ども豊かな人生になると感じた」「それぞれの言語のリズムがとても楽しくて、大人も夢中で聞いた」

セミナー2(カレー交流)

「初対面の人と話し合えた」「何もかも新鮮で、作りながら話したり楽しかった」

セミナー3(日本を開く 外国人との活動経験者が主な対象)

「いろいろな背景を持っている人の考えを共有しあえておもしろかった」「若い人の考えが聞けてよかった」「他者理解や自己理解は思っているよりもっと簡単なことから始められるのだと思った」

【地域活動参加促進】

2区の協力を得て、外国人による避難所解説訓練への見学・参加が実現した。

【企業向けセミナー】「外国人材活用のためのコミュニケーションセミナー」を開催し、やさしい日本語と異文化理解について情報提供できた。「今後、仕事で活かしていきたい」などのコメントから、地元の企業が外国人材を活用するために必要なコミュニケーション上の知識やスキルを提供することができたと言える。

【成果普及】

年度の取組をまとめたリーフレットを作成して配布した。リーフレットは市内の公的機関窓口に置くことで、日本語教育事業の重要性を広く周知する媒体とすることができる。

(3) 今後の改善点について

【多文化理解セミナー】

セミナー1、2ともに外国人が日本語でより多くのことを発信できるよう、更なる事前サポートが望まれるが、当事者の都合で叶わない面がある。

セミナーの終了後、さまざまな形で良いふりかえりが運営者の耳に入った。それらを更に共有してテーマに対する議論を深めていく場が提供できれば尚よい。

セミナーの企画や運営を今後も当協会が全て担っていくのは予算的にもマンパワー的にも難しい。しかし、特に一般市民が参加対象となる取組においては、参加者の要求が厳しい場合もあり、心理的負担が大きいため、有償のスタッフと同じような役割を無償の協力者に担ってもらうのは難しい。事業運営の在り方を今後も模索する必要がある。

【地域活動参加促進】

近隣在住の外国人の参加者を募ったが、多くは集まらなかった。

参加にあたり、区の協力を得たが、実施主体である町内会に対して日本語教育事業の必要性を直接話す機会が持てていない。東日本大震災の避難所で起きた事例などを持って、平常時からとれる対策の重要性を訴えていく必要がある。

【企業向けセミナー】

商工会議所との連携で実施が実現したが、今後、どのように広げていくかが課題である。

【成果普及】

取組の予告や成果報告の媒体として、登録と解除を個人に委ねられるメルマガシステムを利用したいと考えているが、実現に至っていない。

<取組4>

取組 4	取 組 の 名 称		ちば多文化協働ネットワーク会議						
	取 組 の 目 標		「防災」「子育て」「介護」などの生活場面で起こっている(または起こると想定される)多文化化に伴う課題を共有し、解決に向けた連携をおこなうための持続可能なネットワークの拡充。						
	取 組 の 内 容		H27年度に立ち上げた会議を継続開催したほか、取組1, 3の中で各参加機関と連携・協働した。						
	☒	空白地域を含む場合、空白地域での活動	若葉区の関係機関も参加。						
	取組による体制整備 ☐		・各分野で個別に起こっている課題を共有することにより、多文化社会の課題解決に向け、横断的な基盤が強化される。 ・会議に地域在住外国人に参加してもらうことにより、担当者がその生の声をきいて現場での実践に有益な視点が提供される。						
	取組による日本語能力の向上								
	参加対象者		保健福祉センター、介護施設、各区の行政担当等、多文化化問題に直面する各関係機関			参加者数 (内 外国人数)		28人 (6人)	
	広報及び募集方法		個別の参加要請						
	開催時間数		総時間 2時間(空白地域2時間)			1回 2時間×1回			
	主な連携・協働先		参加対象者に同じ						
	開催場所		千葉市国際交流プラザ						
	参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ
			1			1			
イギリス(1人)、ガボン(1人)、パキスタン(1人)、ミャンマー(1人)、日本(20人)									

実施内容

多文化協働ネットワーク会議

上段：日本人数
下段：外国人数

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	出席者	連携先
1	平成29年11月29日 (水) 9:30～11:30	2	千葉市中央区役所	20人 6人	白川恵、サマン・ターリク、トーティトウイ、グオク、カール、リチャード、チャールズ、イツカ、リザ、ネット、ロブレス、ナン、エウイン、マリアノ、ンブンバ	千葉県千葉中央警察署、千葉県千葉西警察署、NPO法人日本防災士会千葉県北部支部、千葉市(国際交流課、幼保運営課、保育所、中央保健福祉センター高齢障害支援課、中央区役所地域振興課、花見川区役所こども家庭課、花見川区役所市民総合窓口課、稲毛区役所市民総合窓口課、若葉保健福祉センター高齢障害支援課、若葉区役所市民総合窓口課、緑区役所菅田市民センター、緑保健福祉センター健康課、美浜保健福祉センター健康課、美浜区役所市民総合窓口課)
計		2時間		26人		

(2～3回分)

【平成29年11月29日】

多文化社会の課題解決のため、地域の関係機関等が情報共有する会議体。今回のテーマは情報提供の方法。各機関による外国人住民への情報提供に役立ててもらうため、翻訳アプリの機能について共有し、外国人市民と有用性について意見交換した。



(2) 目標の達成状況・成果

・前年度までの会議において、「多言語対応」が共通の課題として挙がっていた。そこで各機関による外国人への情報提供に役立ててもらうため、グーグル翻訳の機能について共有した。すべての参加機関が今後に活かせると回答した。その後、6区の区長会議において同様の情報提供を行なうことができた。

(3) 今後の改善点について

「多言語対応」について、外国人市民に身近な道具(スマホ等)を活用して問題解決を図ってもらえるよう、具体的な環境整備を進めていく必要がある。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

・外国人の日本語学習の質の向上と機会拡充、および多様な言語・文化を背景に持つ市民同士の対話を通じた相互理解

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

アンケートコメント、定量評価(添付資料)、および事業コーディネーターによる成果と課題の報告をもとに、運営委員から得られた総合評価コメントは以下のとおり。

○生活者としての外国人に対する日本語教育・社会参加支援、日本人住民の異文化間コンピテンスの獲得、向上を包括的にとらえており、重層的、複眼的視点から本事業を実施している点は評価に値する。個々のプログラムに関しても、学習者のエンパワメントの促進や協働で学ぶことを重視した取り組み内容となっており、目標を達成するための活動として大いに評価できる。外国人住民という新たな構成員を含めたすべての構成員の視点から従来の社会システムを見直す過程への歩みは決して容易なものではないが、本事業はそれに果敢に挑戦している。われわれに異文化共生とは何か、その本質を改めて考える機会を提供する意義ある事業である。

○全体としては素晴らしい取り組みだと思う。千葉だけでなく、各地に共通する課題以外は、ほとんどクリアできているのではないかと感じている。

○各講座の受講者の評価はそれぞれ高い。

多文化協働ネットワーク会議については、各機関の共通する課題について具体的な行動案を示すことができ、また会議内だけでなく、区役所にも提案できたことは大いに評価できる。

○全体的にそれぞれの取り組みの工夫がなされ、需要のあるクラスも明確化されるなど成果が現れているように感じる。

○3か年の計画に基づき、ぶれない理念のもとに事業を進めることができている。取組3は狭い意味での「日本語教育」とは異なるアプローチで外国人のコミュニケーション支援をしながら多文化共生社会の実現をめざしており、本事業の4つの取組はひとつの目的に向かって有機的に絡みながら進んでいると考えられる。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果、等

・行政各関係機関のほか、今年度は商工会議所との連携で企業向けの外国人材活用のためのコミュニケーションセミナーを開催できた。
・安心・安全の観点から外国人市民が避難所開設訓練に参加できるよう、地域振興課と連携したが、多文化化の課題について町内会と直接検討するには至っていない。
・介護現場で働く外国人をテーマとした多文化理解セミナーは、地域内外の介護施設や関連機関との連携で実現した。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

各取組の予告では紙媒体のチラシやポスターのほか、昨年度までに引き続き、フェイスブックページを利用して取組の予告や報告をおこなった。空白地域での取組については近隣の小中学校を経由して外国人保護者に情報が渡るよう、学校を廻った。事業成果はA3見開きのリーフレットにまとめ、全公民館や図書館などに配布することで、新たに活動に参画する潜在利用者の獲得に努めた。

(5) 改善点、今後の課題について

運営委員から以下の課題が指摘された。

○継続的な本事業の取り組みは、確実に参加者の意識変容をもたらしていることが取り組み内容の報告、および報告資料から読み取れるが、やや主観的表現として結果が標記されていることはもったいない。本事業は、参加人数の多さなど人数の増加などだけでなく、それぞれのプログラム内容、実施方法などの質の高さがきちんと認識され正当に評価されるべき事業であるがゆえに、報告がファクトとして実証できる事実だけでなく、意識変容などに関して、妥当な質の評価基準を明確にするなど、主観的結果として受け止められないような実証の仕方をより一層工夫する必要がある。

○今後の取り組みとして、取り組みを通じた社会的インパクトをどう測定するか、そこが必要かなと思う。例えば、取組1のDoで「学習者の社会参加とエンパワメントにつながっている」という項目があるが、これをどう測定するのかということである。少し具体的にいうと、教室での様子や本人のコメントだけで「社会参加」「エンパワメント」を語るのには、やはり無理があると思うので、実際の社会場面でどのようなことが起きているのか、本取り組みがどのように効果をあげているのかを考える必要があるように思う。

また、他の課題としては、持続的な予算確保と人材育成だと思う。この点については、各地で課題となっており、簡単に解決する方法はないと思うが、何か、ここを突破できる方策が見つけられるといいと思う。

○プロジェクト外ではあるが、今後、より精度の高い翻訳システムが普及する可能性もあるため、言葉の壁を気にせず交流できる機能があれば、国際交流課とも連携し周知してもらいたい。

・空白地域対応については、将来的に日本語教室が立ち上がることが目標であるため、現状を受けて今後どうすべきか、スケジュール感をもって検討してもらいたい。

・また、取組みの自立と継続の方策について、引き続き検討してもらいたい。

○よい取り組みや良さが伝わりきっていないように感じ、さらに広報の工夫がされ取り組みの良さが広がっていけば充実した運営につながっていく、目的にある自立化や運営人材の充実といった課題の解決にもつながっていくような気がする。

○継続性についてはクラスや講座を担うことができる人材の確保を更に進めていく必要がある。

学習支援者への研修は本事業で独自にコンテンツを充実させているので、今後、同様の研修を実施できる人材をどのように発掘・確保していけるかが課題である。

○本当に多文化共生につながっているか、外国人市民の社会参加が進んでいるか、学習意欲が上がったか、という点については取組直後のアンケートに基づく評価では不十分であり、他地域の取組も参考にしながら評価の方法から検討することが求められる。

(6) その他参考資料

アンケート集計、チラシ、事業成果普及パンフレット